

外国語活動

フルーツ・パフェを作ろう

5年2組
授業者 福澤 誉子

■単元の目標

- 外来語ともとなる語とでは、音が違うことに気付き、英語の音に気を付けて発音しようとする。
- レストランでの注文場面の体験を通じ、注文を正しく聞き取り、友だちとのコミュニケーションを図る。
- お店で欲しい果物を尋ねたり、注文したりしながらH R Tや友だちとコミュニケーションを図りながら、オリジナルのフルーツ・パフェを作る。
- 各児童がクイズ形式で作ったフルーツ・パフェを紹介し、互いに考えを伝え合う。

■ICT活用の視点

○確かな学力をはぐむために

パフェの材料となる果物を絵カードと音声の機能を併せ持つ「フラッシュ・エキスパート」を活用して紹介することにより、数多くの果物を正しい発音で練習することができると考えた。また、様々な果物をランダムに表示する機能を活用することにより効率よく学習を進めることができるとともに、児童の理解を確かなものとする事ができると考えた。また、買い物の導入時に買い物のスキットをVTRで見せることにより、見通しや自信を持って活動に臨めるようにする。

○学び合い高め合える意見交流活動をするために

児童が作ったオリジナルのパフェを紹介する際に電子黒板、英語ノート（デジタル版・文部科学省）を活用し、数種類のパフェを比較・検討することができるようにする。さらに、児童の意見を電子黒板に反映させることにより、効果的な意見交流ができるようにする。

■本時の授業の概要

前時までの学習で、生活の中に溶け込んでいる様々な外来語に触れ、表す意味は同じであっても外来語と英語とでは発音が異なること、また相手に伝えるためには、外来語のままではなく、もとなる語を意識して発音する必要があることを学んできた。そこで本時では、身近な外来語として果物を取り上げ、好きな果物を注文してオリジナルのパフェを作り、それらを紹介する活動を行う。その際、ICT機器を効果的に活用することにより、児童の理解を深めるとともに、興味・関心を高め活発に意見を交流させることができるよう支援していきたい。

本時の目標

フルーツを買ってオリジナルのパフェを作り、クイズ形式で紹介することを通してコミュニケーションを図る。

学習活動	指導上の留意点
1. あいさつをし、歌を歌う。 「Let's go shopping!」	児童と一緒に楽しく歌い、活動への期待を持たせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> オリジナルのフルーツ・パフェを作って紹介しよう。 </div>	
2. 果物の言い方を練習する。 apple, melon, banana orange, cherry, strawberry	電子黒板、フラッシュエキスパートを活用し正確に発音したり、ランダムに画像を表示したりしてテンポよく練習できるようにする。
3. オリジナルのフルーツ・パフェを作る。 (1) 活動の流れを説明する。 (2) 店員と客に分かれて買い物を する。 客：Hello. 店員：Hello. What do you want? 客：Banana, please. 店員：OK. Here you are.	前半と後半で役割を交代し、店員と客の両方の会話を練習する機会を設ける。 店員と客の相互のやりとりが丁寧にできるよう声をかけたり、果物の発音が難しい児童を支援する。
(3) 買った果物を使ってパフェを作る。	
	
4. 作ったパフェを紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> ● ヒント① I like banana. ● ヒント② I like cherry. ● ヒント③ I like apple. 	電子黒板を使いスリーヒントクイズの要領で自作パフェを紹介することにより、興味を持って積極的に意見交流ができるようにする。
5. 本時の活動を振り返る。 6. 終わりの挨拶をする。	◎ 買い物やオリジナルパフェと楽しくコミュニケーションをとることができたか。